

# 第8回 芹川川づくり会議 報告

平成19年6月10日(日)

13:00~16:30

ひこね市文化プラザ

## 1. 開会

予定どおり、13:00に第8回芹川川づくり会議を開催しました。会議には、約30名もの方にご参加頂きました。お休みのところ、多数の方々にご参加頂き誠にありがとうございました。

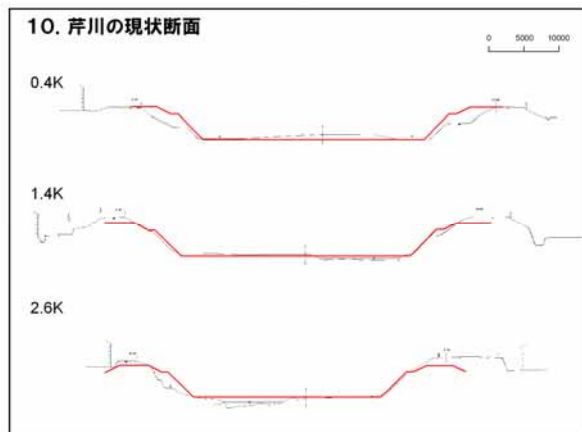


## 2. 全体説明

グループ討議に先立ち、『芹川の現状について』、『芹川川づくり会議の経過について』、『浸水想定マップについて』の3点について滋賀県より、ご説明させて頂きました。

### 芹川の現状について (湖東地域振興局より説明)

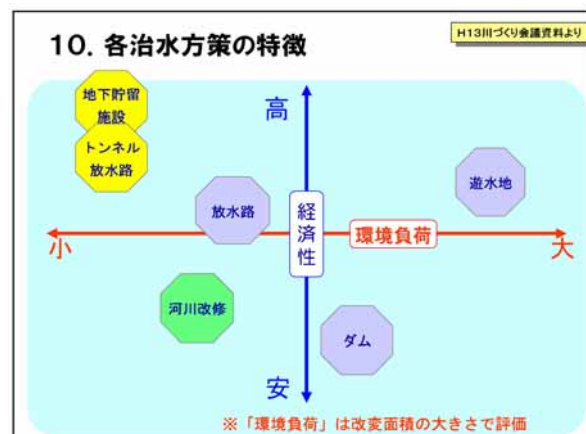
芹川流域の変遷やS42年からの河川改修事業の概要、ならびに現在の状況等をご説明させて頂きました。



芹川の現状断面 (説明スライドより)

### 芹川川づくり会議の経過について (芹谷ダム建設事務所より説明)

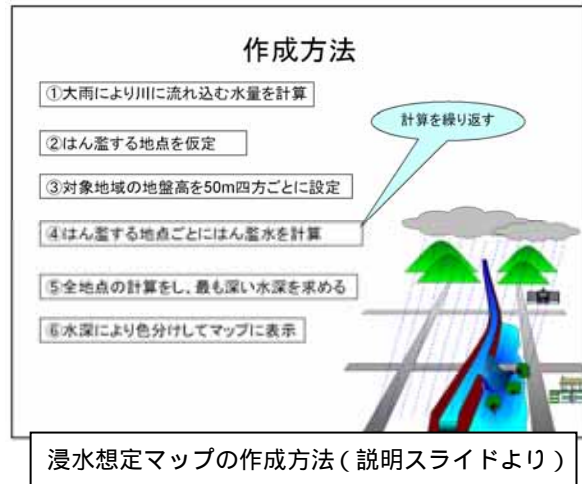
今までの川づくりの経過や、代替案の考え方についてご説明させて頂きました。



各治水方策の特徴 (説明スライドより)

## 浸水想定マップについて（流域治水政策室より説明）

浸水想定マップの必要性や作成手順について説明させて頂きました。



### 3. グループでの話し合い

約6～7人を一つの班とし、全体でA班～H班の8班に分かれて頂き、グループでの話し合いを行いました。参加して頂いた皆さんには、熱心かつ有意義な意見交換をして頂けたのではないのでしょうか。



A グループの話し合いの様子



B グループの話し合いの様子



C グループの話し合いの様子



D グループの話し合いの様子



E グループの話し合いの様子



F グループの話し合いの様子



G グループの話し合いの様子



H グループの話し合いの様子

#### 4 . グループ発表

グループ内で話し合いをして頂いた内容について、各グループの代表の方に発表して頂きました。他のグループの内容についても皆さん興味を持って聞かれておりました。



グループ内での話し合いの内容発表



## 5. 質問への回答

グループでの話し合いの中で出てきた質問に対して、滋賀県より回答をさせていただきました。



### 会議全体について

Q. 今後の川づくり会議の進め方はどうなっているのか？

A. 今回の会議では、ハード整備による治水対策が必要であることまでは共通認識が持てたと思っている。ハード整備は一定の時期に県が判断し、進めたい。但し、ハード整備を進めるにしても一方でソフト対策が必要となるため、この会議が次のステップであるソフト対策の議論のベースとなればと考えている。よって、この会議はあと何回で終わるかは明言できない。また総合防災も含んだ防災体制の組織づくりもこの会議を母体にしたいと考えているが、今のところ確証できない状態である。

勉強しないと



### ダム関連について

Q. ダムサイト変更の経緯について教えてほしい。

A. 第1回から第6回の川づくり会議でも、特に前半部分では、「芹川の自然を守って欲しい」、「ダムによって水没することを防いで欲しい」といったいわゆる「芹川本川の自然を守って欲しい」といった意見が多くあった。一方で、滋賀県としては、治水対策が必要であることを強く考えており、淡海の川づくり検討委員会の学識経験者の方々に御相談申し上げた結果、流水ダムを考えてはどうか、また、芹川本川にこだわるのではなく、もう少し場所を変えてはどうかといった御意見を頂いた。このような経緯で、現在の芹谷ダム計画を検討している。

Q. 洪水発生時の想定被害額はどれくらいか？また、ダム事業の費用対効果はどれくらいか？

A. 100年に1度発生する洪水を仮定すれば、およそ2,000億円の被害が発生することを想定している。また、年間平均被害額に対する費用対効果は約1.6である。

Q . 分水施設（トンネルも含む）での土砂および流木対策はどのようなものか？

A . 洪水時の微細粒土砂については取り除くことはできないが、河床を流れてくるような土砂については、分水堰の構造上の工夫（リターンオリフィス）で対応すること考えている。流木対策については他ダムのスクリーン設置事例等を踏まえ、実験等の実施により対策を検討していくことを考えている。

ダム本体の流木対策については、他ダムの実施事例を参考に、スクリーン設置等を実施していきたいと考えている。ダム本体の土砂対策については、現地の河床材料粒径から判断しても、洪水吐きを閉塞させてしまうことはないと考えている。

Q . 地下放水路とダムの費用の比較が必要ではないか？遊水池案はなぜ環境負荷が大きいのか？

A . 地下放水路の費用については滋賀県ホームページにも掲載しているが、放水路プラス河川改修案でおよそ 1,030 億、トンネル放水路プラス河川改修案で約 1,590 億、地下貯留プラス河川改修案で約 1,970 億と算定している。また、遊水池案の環境負荷が大きい理由は、環境負荷を改変される面積で評価しているためである。遊水池案では、広大な土地を 2m ほど掘り下げることになるため、環境負荷が大きいと評価している。

なるほどね



### 河川管理について

Q . 水防倉庫の現状はどうなっているのか？

A . 水防法によれば、水防倉庫については、市あるいは町が整備・設置をすることになっている。芹川の水防倉庫については、彦根市では 1 箇所、東沼波水防倉庫を設置されている。また多賀町については、中川原地先と久徳地先の 2 箇所の芹川沿いに水防倉庫が設置されている。なお、彦根市では他に、矢倉川に 1 箇所、それから犬上川に 2 箇所、宇曾川に 3 箇所、愛知川に 2 箇所の水防倉庫が設置されている。滋賀県の方では湖東圏域の中心に当たる犬上川の小川原地先に水防ステーションを設置し水防に備えている。

Q . 芹川の河川変更（旧河道）の影響は？

A . 旧河道は、河川堤防の安全性を考える上で一つの重要なポイントとなるため、今後、堤防点検の調査の中で、旧河道の状況等も考慮に入れながら調査位置を検討していきたいと考えている。

Q . 大堀橋上流右岸は堤防がないのではないか？

A . 大堀橋の上流では堤防が大堀山に繋がるような形態になっており、基本的には大堀橋～大堀山の区間については堤防の機能がある。また、大堀山から新幹線橋までの間については、一見堤防がないように見えるが、現地を詳細に調査すれば、北側に新幹線と大堀山を結ぶような堤防が残っている。

Q . 堤防の強度は大丈夫か？また護岸は大丈夫か？

A . 今年度から堤防点検の調査に入る予定をしており、3 箇所でのボーリング調査を計画している。それらの結果を踏まえ、すべり破壊、ハイピング破壊に着目し安全性の評価を行い、安全性の条件が満たされない場合に堤防強化の検討を実施する。また、護岸については、昭和 42 年からの河川改修では、擁壁の構造と近い、いわゆる練積みの形態としており、護岸としての機能は維持されていると考えている。

## 浸水想定マップ関連

Q . マップの公開で不安をあおらないようにしてほしい。メンタルな配慮が必要ではないか。

A . 本来浸水想定マップは、住民の皆様の避難を促すために作成しており、ハザードマップ作成のための作業の一環である。この中で、災害の際にどのように避難をしたらよいかわからないといった過度の不安については、この不安を解消すべく、ハザードマップや避難水位の整備を進めたいと考えている。

Q . 県と彦根市の避難体勢の連携はどうなっているのか？

A . 現在、滋賀県では、河川水位の観測を常時実施している。また、水位観測などの避難の際に重要となる情報については、彦根市、多賀町の方に随時情報提供を行っている。今後は避難水位等の情報を滋賀県、彦根市、多賀町で連携して共有していくことを考えている。

Q . 芹川の浸水想定は琵琶湖の水位も考慮に入れるべきではないか？

A . 琵琶湖の水位は、“平均水位 + 40 センチ”の水位を想定して、浸水想定の実施している。なお、琵琶湖水位が上昇しそれに伴い湖辺域が浸水するという被害も過去には発生しているが、通常琵琶湖の水位が上昇するタイミングは、周辺河川からの琵琶湖への流入が発生し、その後、琵琶湖の水位が上昇するといった形態となっている。よって、今想定している“平均水位 + 40 センチ”の水位はたくさんの雨が降り、琵琶湖水位がかなり上がっているといった想定となる。

Q . マップ上の白いエリアは本当に水につからないのか？

A . 今回の浸水想定マップは、あくまでも芹川からあふれた水により、どのような浸水深となるかを示した図であり、大雨の際、市街地で排水路等の水はけが悪く、浸水したりする現象（内水被害）については今回のマップでは考えていない。基本的には白いエリアは土地の標高が高く、安全性は高いと考えられるが、土地によっては大雨の際に水はけが悪く、浸水する可能性もある。今後は、ハザードマップ作成の段階で、このような内水型の浸水についても併せて検討をする予定である。

いろいろ考えないとね



## 6 . 全体討論

会議全体を通じて、最後に意見交換を行いました。

### 主な意見

#### 参加者の方の意見：

歴史、伝統、文化等も含めた広い意味での環境やソフト面も議題として欲しい。

#### 滋賀県からの回答：

ハードとソフトの両面について議論を進めていく必要があるが、ハード面については以前からの議論でかなり進められてきた。ソフト面の議論として本日は浸水想定マップをお示しした。今後は彦根市、多賀町とも協力して防災体勢の強化、避難体制のあり方等について議論していきたい。

#### 参加者の方の意見：

浸水想定マップについて、詳しい検討条件を示して頂かないとなかなか理解が困難である。最も危険側を想定していることは理解できるが、過剰反応にならないように留意して頂きたい。また、まず河床掘削を実施して流下能力を増やして欲しいといったことについても検討して欲しい。

#### 参加者の方の意見：

河床掘削とか環境の話とか、これまでの川づくり会議の中で議論されてきたことである。過去の会議の議論の経緯を抜粋して示した方がよいのではないか。

## 7 . 閉会

熱心な意見交換により、当初の会議終了予定時刻を過ぎましたが、無事に会議を終えることができました。皆さん、ご協力ありがとうございました。



滋賀県では、今後の治水対策として、これまでの対策に加え、「ためる」、「とどめる」、「そなえる」といった総合的な「流域治水」対策に力を入れていきたいと考えております。そのためには、流域住民の皆様のご協力が必要となります。今後とも、是非一緒に考えていきましょう。

